

(様式3)

自己評価結果票 (Aユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1.理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「入居者の方々に安らぎのある生活を、それが私たちの願いです」を理念に掲げ、入居者が安心して暮らせる地域、家庭と同じような雰囲気となることを目指している。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念を玄関やスタッフルームに掲示し、毎朝申し送り時に唱和している。理念から視点を広げた月間目標を定め、日々の実践につながるよう取り組んでいる。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、家族や地域の方々に今後の取り組みなどを理解してもらえるよう、話す場を設けている。また、入居時やケアプラン時、家族会、訪問時などで説明し、理解してもらうよう取り組んでいる。</p>	
2.地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>天気の良い日は外気浴や散歩を行い、近隣の方と挨拶を交わしている。また、毎月地域の清掃活動を行っている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の盆踊り大会や夏祭り、秋祭りなど、地元の方々と交流の機会を作っている。また、老人会や小学校、中学校など慰問の受け入れをしている。地域主催の七夕会、敬老会、クリスマス会、節分など招待を受け参加している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動はあるが、職員は全員正規職員であり、新たに配属されたときはグループホームについての理解を深め、慣れるまで職員がフォローして、入居者への影響の軽減に努めている。		
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画として担当職員を決め、毎月テーマに沿って施設内研修会を開催している。また、法人内で行われている研修会や外部研修会にも参加している。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は今年度グループホーム連絡会の会長を務め、他事業所と協力しながら研修会を企画し、勉強会や意見交換、情報交換を行っている。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	疑問に思ったことや相談事などが出来る体制作りを心掛けている。また、ボーリングや忘年会、新年会など職員の親睦に取り組んでいる。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者や職員の個々の努力や実績、勤務状況などを把握し、向上心を持って働けるよう昇給や賞与などに反映されている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談時には本人にも同席してもらい、不安や要望を聴く機会を設けている。また、内容をシートに明記し、職員全員が把握出来るように努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談があれば1～2ヶ月毎に相談者に電話連絡し、不安や要望、今の状況などを聴いている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談中において状況を把握し、出来る限り情報の提供に努めている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>相談時には他の利用者や職員と過ごす機会を作り、交流を図っている。また、必要時には慣れるまで電話や面会を依頼している。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日々一緒に過ごし支え合うためには、まずその人を知ることであるため、家族に協力のもと生活歴や背景の把握に努めている。また、入居者の感動した場面や楽しい出来事を忘れてしまう寂しさや悲しさを軽減するため、必要な方には職員と一緒に日記を付けてもらい、思い出を共有出来るよう取り組んでいる。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	年3回茶話会を開催し、一緒におやつ作りを行い談話の時間を設けている。また、面会時には暮らしぶりなどを報告し、必要に応じて外出などの機会を依頼し、協力を得ている。		
29 利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時や面会時、ケアプラン会議時などでは、これまでの生活環境などを尋ね、入居者と家族との関係の理解に努めている。また、施設内行事を家族参加型で企画し、主介護者以外の家族にも声掛けを行い、参加を呼びかけている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親族などに年賀状や暑中見舞い、手紙などを出したり、面会に来てもらっている。また、馴染みの場所については外出などを利用し、立ち寄れるように心掛けている。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	シートを活用し、個々の能力を活かしながら、入居者間で良い関係が作れるように努めている。また、必要なときには職員が間に入り、関係作りに努めている。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	いつでも連絡して欲しいことを伝え、必要時は家族への情報提供に努めている。また、可能な方には家族の方の承諾を得て、面会やお見舞いを実施している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式のシートを活用したり、家族からの情報などから思いを汲み取り、その人らしく暮らせるようにケアプランの立案に反映させている。また、変化する思いや意向は毎週検討会で話し合いを行っている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>相談記録や個別シートを活用したり、家族の方々に生活歴シートの記入を依頼している。また、馴染みの物を持って来てもらうようにしている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>生活リズムや心身の状態について、焦点情報シートや心身の情報シート、アセスメントまとめシートを活用し、把握するようにしている。</p>	
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式を取り入れ、段階に応じて期間を決めながら、本人や家族の思いや希望を把握しながら作成している。また、ケアプラン会議には必ず同席を依頼している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>職員それぞれが1～3人受け持ち、計画で上がった項目をチェック表におとし、日々の記録やミーティングで状況を把握し、期間に応じて見直しをしている。また、状況の変更があるときは、その時点で見直しをしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などは介護記録に記入し、申し送りを徹底してる。また、健康チェック表で介護計画の実践の有無をチェックしたり、毎週の検討会で気付きなどの情報交換を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	けいふう心療クリニックや併設の病院、併設内の歯科、老人保健施設、通所リハビリテーション事業所を活用し、受診や行事参加、リハビリなど必要に応じた支援を行っている。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	週1回のボランティアや介護実習の受け入れをしている。また、消防署立ち合いで、消火訓練を受けている。		
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は他のサービスを利用する方はないが、グループホームの意見交換会などを利用し、情報の把握に努め、希望があれば支援していく体制である。		
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、利用する機会はないが、必要に応じて協働出来る体制である。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医へ家族と受診してもらったり、希望があれば、法人の病院を職員と一緒に受診する機会を作り、適切な医療が受けられるよう、相談しながら決めている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要な方には家族の方に状態を報告し、併設の病院より往診してもらい、適切な治療が受けられるように支援している。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が常勤しており、日々の健康管理に努めている。また、定期検診やインフルエンザの予防接種なども計画的に実施している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者が入院する際はサマリーを活用し、病院関係者への情報提供に努めている。また、必要な方への相談にも応じている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に医療連携体制の看取り介護実施の定義について説明し、同意を得ている。また、ホームで事例はないが指針について様式を整備し、職員間で勉強会を行っている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	併設の病院や事業所において、看取りの体制を明確にしている。また、看取りについては施設内での勉強会や、併設の病院での勉強会に参加し、知識を深めるようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食、週に4回の昼食を手作りの日とし、会話の中から献立を決め、食材の買物に行っている。また、同じ人に偏らないよう配慮し、出来るだけ多くの方に役割を持ってもらっている。		
55	利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	週4回の買物時や併設内の売店などで、希望のおやつ購入の機会を作っている。また、飲み物の温度、甘さなども好みに合った物を提供出来るように支援している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者の排泄パターンを把握するためにし、チェックリストを活用したり、不快を与えないような対応について話し合うようにしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の希望に沿えるよう、午後と就寝前に分けて、1人ずつ入浴出来るように支援している。また、入浴を余り好まれない方の場合も、希望日を相談しながら勧めている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	毎日の睡眠状態や日中の活動などに応じ、休息を勧めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	暮らしの情報シートや焦点情報シートを活用したり、家族の情報から、個々に合った役割や楽しみごとを思い出したり、発揮出来る機会を作っている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者や家族と相談し、希望の方には小額を所持してもらっている。また、買物時は財布を手渡し、支払いなどの機会を持つように支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に沿えるよう、買物や散歩、外食、喫茶店などへ出掛ける機会を支援している。また、少しの用事でも一緒に出掛ける機会を作り、距離が長くなると歩けない方は車椅子を利用し、多くの入居者が出掛けれるよう配慮している。家族の方にも入居者の意向を伝えている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の意向を家族の方に伝え、出掛ける機会を作ってもらったり、外食時を活用し意向に沿えるよう支援している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人や家族に年賀状や暑中見舞い、手紙などでやり取りが出来るように支援している。また、電話の取り次ぎや代行を行ったり、自ら携帯電話を持ち常に家族と連絡を取っている方もいる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間は設定しているが、家族の都合を考慮している。訪問時にはお茶を用意し、自室でゆっくり過ごしてもらえるようにしている。また、いつでも気軽に訪問してもらえるよう声掛けをしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用契約書や重要事項説明書に身体拘束は原則行わないと明記している。また、マニュアルを作成し、勉強会や研修会などで、身体拘束や行動制限に関する知識を深め、日々のケアに取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営推進会議やミーティング、勉強会などで玄関の施錠について話し合い、現在も施錠している。しかし、閉鎖的な空間にならないよう、可能な限り玄関を開錠したり、希望時は開放するようにしている。		
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員間で声を掛け合い、入居者の所在や様子など把握に努めている。また、夜間は2時間毎に巡視を行い、安全確保に配慮している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品の取り扱いについてはマニュアルを作成し、調理用具や洗剤などについては各勤務帯で点検を行っている。また、裁縫用具やハサミ、爪切りなどは個々の希望に沿えるよう、本人や家族と相談し対応している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	全てにおいてマニュアルを作成しており、施設内での勉強会において知識を深めている。また、随時インシデント報告書やアクシデント報告書を作成し、職員間で周知するようにしている。必要時には検討会を行い、再発防止に努めている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応についてマニュアルを作成し、職員に周知している。また、施設内で人形を使用した心肺蘇生法やAEDの使用方法など、定期的に勉強会を行っている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人と協力し、緊急時マニュアルや連絡体制を整備している。また、毎月入居者と一緒に夜間や日勤想定避難訓練を実施し、年に1回消防訓練を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>日誌や介護記録、申し送りなどから、職員間で情報を共有し対応している。また、観察力を養い、状態変化に気付いたときは、他職員に報告をしている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>入居者の服用している薬の目的や用法、用量を把握し、与薬時は職員2名で確認し与薬している。また、変更時は申し送りを徹底し、状態の変化など観察に努めている。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>緩下剤だけに頼らず、水分補給や体を動かすことの大切さを説明したり、個人の状態に応じて牛乳や野菜ジュースなどで対応している。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>起床時や就寝時には必ず口腔ケアの声掛けを行っており、毎食後の含嗽や歯磨きなどが必要な入居者には、声掛けや介助を行っている。また、義歯洗浄剤は定期的の実施している。必要な方には、併設の歯科から口腔ケアの往診を依頼している。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>バランスの良い献立を考え、摂取量は健康チェック表に記載している。摂取困難なときは食べやすい大きさにカットしたり、他の物で補っている。水分量に関しては、入浴後や外出後、発熱時などは特に気を付け、確保出来るように支援している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染防止対策マニュアルを作成し、職員に周知している。季節ごとに予防対策を話し合ったり、勉強会に参加している。外出後の含嗽や手洗い、食事前や排泄後の手洗いなどを心掛けている。また、スーパー次亜水を活用したり、玄関先にも設置し外来者にも呼びかけている。随時、ニュースや新聞などからの情報について話し合っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理の取り扱い方法についてマニュアルを作成し、職員に周知している。また、調理用具の消毒、冷蔵庫の掃除など定期的に行い、衛生管理に努めている。食材の賞味期限などを徹底し、スーパー次亜水を活用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関やスロープ周辺には季節の花や野菜、飼育している金魚やめだかなどで、心が和むように取り組んでいる。また、玄関先にベンチを設置し、外気浴時は近隣の住民との交流も図っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらえるよう、季節に合った飾り物を一緒に作って飾ったり、季節の花や観葉植物で心穏やかに過ごせるよう工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるよう、ホールには大勢で過ごせる場所や、仕切りを利用して小人数で過ごせるなど、居場所の工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や洋服、装飾品などを持って来てもらうようにしている。また、家族の写真や手作りの飾り物、カレンダーなどで心和むように工夫している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日窓を開け、換気に心掛けている。また、個人の状態に合わせて温度調整を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで廊下、トイレ、浴室には手すりを設置している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には表札をあげ、希望に沿った飾り物や暖簾などで判りやすいようにしている。また、トイレや浴室にも暖簾や張り紙で判るように工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチを設置し、花や野菜、外気に触れることなどから、季節を感じてもらえるよう工夫している。また、個々の能力に応じ、水撒きや草引き、野菜の収穫などが出来るように工夫している。		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目 (Aユニット)		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)